

2004.10.2(木) 上毛新聞

(第3種郵便物認可)

県環境アドバイザーからの提言

そして未来

▶▶16

毎日の生活に欠かせない三度の食事づくり、大切な水を無造作に使い流してはいらないだろうか。例えば一回の食事づくりで、何度まな板や包丁を洗うだろう。「そんな細なことを」と一笑に付立てる時から、洗う順序、切り刻む順番を立て、無色無臭の野菜からはじまり、色の濃い魚もの、においの強い魚の三枚おろしで終わる。まな板、包丁を洗うのはたったの一、二回で済む。

後付けでは、調理器具や食器の汚れは、端布でひと拭きしてからと、意識して節水を

心がければ、なんと半分くらいで済んでしまう。

地域での高齢者や親子料理教室、まつりなどを通してさまざまな場面で節水のアイデアを交わす。数年たってから「今も生活の中に生かしていますよ」と告げられる。そのひと言に「このうえない喜びを感じる。「水を大切に……」を名言葉に、今すぐ出来る身近なことが目的意識をもつて実



目的意識を持つて調理するメンバー

倉に必要な水の量)と
いう考え方においてはめで換算すると、年間使用量の三分の一相当量を輸入している計算となる。雨が多く水が豊かな日本と思われがちだが、地下に浸透するより海に流れ去るのが速く、実際に使える水は少ないという。世界

主要農畜産物を外国へ輸入先の米国や中国の水危機は大丈夫なのか。

（主に米国、野菜は中國からの輸入でまか

なう日本の食料自給率は40%。ちなみに米仏は120—130%、英米は100%、イスラエルは60%。これを仮想水（輸入産物を日本で生産したと仮定した場

（相場 澄子）

水の大切さ



【あいば・すみこ】 館林市岡野町。県環境アドバイザー幹事。邑楽館林環境アドバイザーワークshop会代表。

なう日本の食料自給率は40%。ちなみに米仏は120—130%、英米は100%、イスラエルは60%。これを仮想水（輸入産物を日本で生産したと仮定した場

か。水のありがたさ、大切さを再認識し、人の輪、知恵をばぐくみな

がら、「継続は力なり」をモットーに訴えつけたい。